

**BANDO**

*Breakthroughs for the future*



イノベーションで先へ行く!走れ!未来へ  
**ON THE RUN!**

第95期 株主通信

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

**バンドー化学株式会社**

## グローバルで「際立つ」 サプライヤーを目指して



代表取締役社長 **吉井満隆**

### ご挨拶

株主の皆様には、日頃は格別のご高配にあずかり、心から御礼申し上げます。第95期株主通信をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当年度における世界経済は、米国の景気は堅調に推移し、欧州も緩やかな景気回復が持続いたしました。アジア地域においては世界的な景気回復を背景に輸出が成長をけん引し、中国も内外需要が堅調を維持したほか、日本も緩やかな回復基調が持続いたしました。当社グループの主要な市場である自動車分野におきましては、米国や欧州では、自動車生産台数が前年度を下回る状況で推移いたしました。中国では、自動車生産台数が前年並みで推移し、日本では、新型車の投入などにより生産台数が前年度を上回る状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第1ステージの最終年度として、自動車用、二輪車用、農業機械用および一般産業用の伝動ベルト、軽搬送用ベルトなどを主軸として、日本や中国、アセアン地域を中心に拡販活動を活発に展開いたしました。また、高い精度で固縛用ベルトの張力を数値管理でき、輸送の信

頼性を高めることができる固縛ベルト用張力計「LASHINGBITE®(ラッシングバイト)」の販売を開始したほか、クリーンルーム等で問題となっている落下塵の可視化を実現した異物検査ツール「BANDO DEC-20™」を開発するなど、既存事業以外の分野の新製品開発も積極的に進めてまいりました。一方、収益力向上のため原価低減活動を徹底し、世界最適調達・生産・供給体制の構築によるグローバル競争力の強化などにも取り組んでまいりました。また、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として、経済産業省と東京証券取引所から「健康経営銘柄2018」に、2年連続で選定されました。

これらの結果、当年度は、売上高は912億6千3百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益は63億3千6百万円（前年同期比7.5%増）、経常利益は65億9千8百万円（前年同期比0.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は47億9千5百万円（前年同期比3.1%減）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### トップインタビュー

**Q** 中長期経営計画の第1ステージ(BF-1)を振り返って。

**A** 2013年に掲げた中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第1ステージ(BF-1)のテーマは「既存事業の強化」と「新事業の創出」でした。既存事業の強化については、当初予想していた以上に自動車のハイブリッド化、電氣化が進展し、主要製品である補機駆動用伝動ベルトの販売は伸び悩みましたが、スクーター用変速ベルトはタイ、ベトナムやインドなどアジアを中心に販売が伸びました。また、産業用伝動ベルトは産業機械や農業機械に加え、監視カメラやATMなどに使用する「シンクロベルト®」の販売が伸びました。一方、新事業の創出については、自動車産業が変革期を迎えるなか、当社のコア技術を活かした製品開発を進めてまいりました。具体的には、自動車用電子部品の高性能化のために重要な熱管理に着目した高熱伝導放熱シート「HEATEX®」の開発のほか、医療機器・ヘルスケア機器に向けた伸縮性ひずみセンサ「C-STRETCH®」やディスプレイの視認性を向上する光学用透明粘着剤シート「Free Crystal®」、エレクトロニクス向けの研磨加工に適した精密研磨材「TOPX®」などの開発を進め、次世代の柱となる新事業の育成を積極的に進めてまいりました。

**Q** 中長期経営計画の第2ステージ(BF-2)が始まりました。

**A** 2018年度からスタートした第2ステージ(BF-2)においては、「新事業の創出」、「コア事業の拡大」、「ものづくりの深化と進化」、「個人と組織の働き方改革」の4つの指針を掲げ、BF-2の目標を達成すべく、当社グループ一丸となって、鋭意、事業活動に取り組んでまいります。そして、これら指針のなかでも、特に「新事業の創出」については、優先的に経営資源を投入していく方針です。また、BF-2の目標を達成するためには社員の健康増進と効率的で生産性の高い働き方が土台となるため、個人と組織の仕事のやり方を見直すなどの働き方改革にも注力してまいります。



## 事業別の概況

### 自動車部品事業

売上高 41,701百万円 前年同期比 3.4%増

セグメント利益 3,263百万円 前年同期比 11.1%増

#### 概況のポイント

- 国内では、自動車生産台数が前年を上回る状況で推移し、補機駆動用伝動ベルト(リブエース®など)の販売は増加したものの、顧客の海外現地調達化の影響などもあり、補機駆動用伝動システム製品(オートテンションなど)の販売が減少。
- 海外では、中国において主要顧客の生産台数の減少により販売が減少したものの、アジア地域において積極的な顧客開拓に注力したことにより、補機駆動用伝動ベルト、補機駆動用伝動システム製品およびスクーター用変速ベルトなどの販売が増加。

### 高機能エラストマー製品事業

売上高 15,160百万円 前年同期比 1.7%増

セグメント利益 429百万円 前年同期比 46.0%増

#### 概況のポイント

- 機能フィルム製品については、工業用および医療用フィルムの販売は減少したものの、事業転換の一環として新たな用途開拓を進めている自動車・二輪車用外装フィルムの販売が増加。
- 精密機能部品については、主要顧客であるOA機器メーカーの増産により高機能ローラおよびブレードの販売が増加。

### 産業資材事業

売上高 32,369百万円 前年同期比 2.9%増

セグメント利益 1,907百万円 前年同期比 4.2%減

#### 概況のポイント

- 伝動ベルトについては、中国において農業機械用伝動ベルトなどの販売は減少したものの、アセアン地域、米国および欧州における販売強化により農業機械用伝動ベルトや産業機械用伝動ベルトの販売が増加。また、国内においては、ロボットをはじめ民間設備投資需要が増加したことにより、産業機械用伝動ベルトおよびプーリの販売が増加。
- 運搬ベルトについては、国内の石炭火力発電所向けなどの案件が減少し、コンベヤベルトの販売が減少。

### その他事業

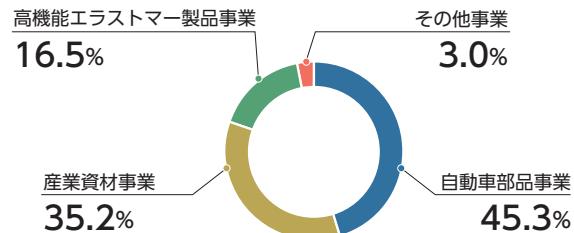
売上高 2,732百万円 前年同期比 8.9%増

セグメント利益 316百万円 前年同期比 25.9%減

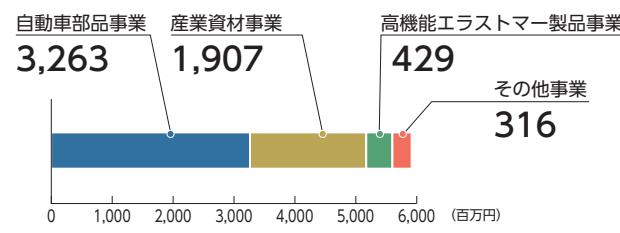
#### 概況のポイント

- ロボット関連デバイス事業やその他事業における新製品開発のための先行投資を実施。

#### 当年度の事業別売上高構成比



#### 当年度のセグメント利益



※上記の各事業別売上高およびセグメント利益は、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

## 財務ハイライト

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

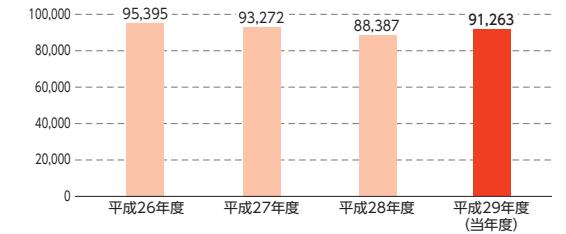
科目	当連結会計年度 (H30.3.31)	前連結会計年度 (H29.3.31)
<b>資産の部</b>		
流動資産	54,336	52,801
固定資産	44,899	43,894
有形固定資産	29,409	29,137
無形固定資産	1,563	1,548
投資その他の資産	13,926	13,207
資産合計	99,236	96,695
<b>負債の部</b>		
流動負債	25,043	24,773
固定負債	10,797	13,181
負債合計	35,841	37,954
<b>純資産の部</b>		
株主資本	61,897	58,513
その他の包括利益累計額	1,265	7
非支配株主持分	231	220
純資産合計	63,394	58,741
負債純資産合計	99,236	96,695

### 連結損益計算書(要旨)

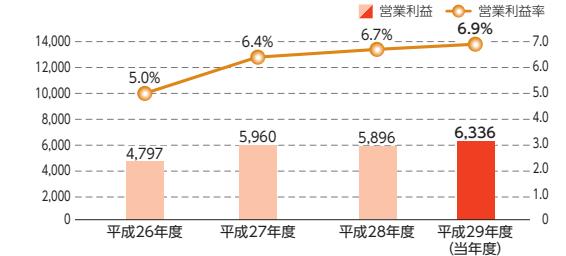
(単位:百万円)

科目	当連結会計年度 (H29.4.1から H30.3.31まで)	前連結会計年度 (H28.4.1から H29.3.31まで)
売上高	91,263	88,387
営業利益	6,336	5,896
経常利益	6,598	6,571
親会社株主に帰属する当期純利益	4,795	4,951

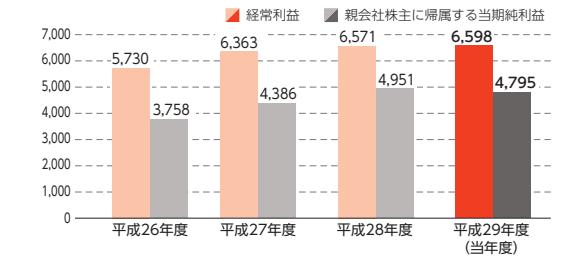
### 売上高 (百万円)



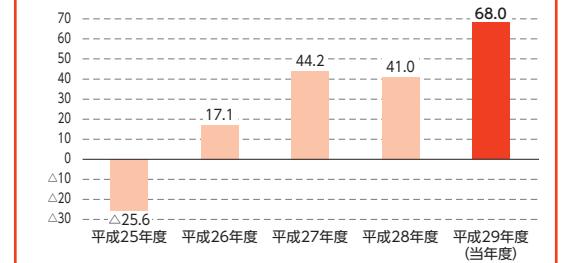
### 営業利益 (百万円) / 営業利益率



### 経常利益 / 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



### ネットキャッシュ(純有利子負債)の推移 (億円)



## 特集 中長期経営計画の第2ステージ (BF-2)

BF-2では、次の4つの指針を掲げ、特に「新事業の創出」に優先的に経営資源を投入いたします。  
 具体的には、医療機器・ヘルスケア機器事業および電子資材事業の早期確立を目指してまいります。  
 また「コア事業の拡大」のため、マーケティング活動に注力し、ターゲット市場で他社に先行する開発を行うとともに、  
 新技術の導入とものづくり改革を推進することにより、製造原価の低減を図ってまいります。  
 これらを達成するため、個人と組織の仕事のやり方を見直すなど、働き方改革を推進してまいります。

### ■ 定量目標

BF-2目標	売上高	営業利益	ROE	新事業・新製品比率
2022年度	1,200億円	120億円	12%	30%以上 (うち新事業10%以上)

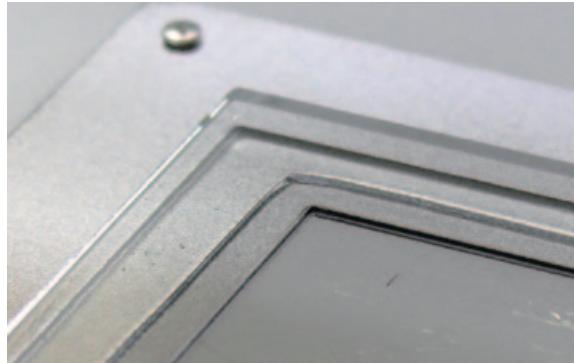
### BF-2の4つの指針

#### 指針1 新事業の創出

▶医療機器・ヘルスケア機器事業と電子資材事業の確立を中心とする新事業の創出に関する活動に対し優先的に経営資源を配分し、事業ポートフォリオの転換を図る。

##### 重要テーマ

1. 医療機器・ヘルスケア機器事業の確立
2. 電子資材事業の確立
3. 新規事業分野の調査

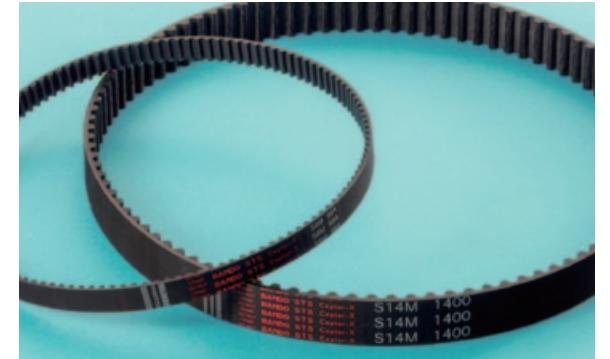


#### 指針2 コア事業の拡大

▶高付加価値製品の提供とお客様の利便性向上により、重点市場で市場地位トップを獲得する。

##### 重要テーマ

1. 市場ニーズにマッチした高機能化、省エネ、環境負荷低減仕様の開発
2. お客様の利便性向上につながるバリューチェーンの拡大



#### 指針3 ものづくりの深化と進化

▶コア事業をグローバルに成長させ、かつ、収益力を向上させるため、革新製法の開発とグローバル全体最適を目指した製造原価低減活動など、ものづくりの技術と体制を進化させる。

##### 重要テーマ

1. 革新製法の開発
2. IoT化とAI活用の推進
3. グローバル全体最適を目指した製造原価低減活動の推進



#### 指針4 個人と組織の働き方改革

▶働く環境と制度の整備、人材の育成と意識改革を通じて、自律的で創造的な働き方を推進する。

##### 重要テーマ

1. ワークスタイルの変革
2. グローバル経営の強化
3. 人材の獲得と育成

## TOPICS

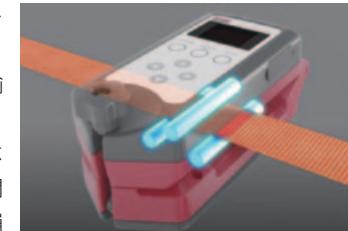
<ul style="list-style-type: none"> <li>● バイオマス発電プラント向けコンベヤベルト「BANDO FR-BIOS®(バイオス)」を販売開始</li> </ul>	 <p>BANDO FR-BIOS® (バイオス)</p>	2017 3月	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「第8回高機能フィルム展」に出展(東京ビッグサイト)</li> <li>● 輸送貨物の固縛ベルト用張力計「LASHINGBITE®」を販売開始</li> </ul>		4月	
		5月	● 株式の立会外分売の実施、終了
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「2017国際食品工業展(FOOMA JAPAN2017)」に出展(東京ビッグサイト)</li> <li>● 「第21回 機械要素技術展(M-Tech)」に出展(東京ビッグサイト)</li> </ul>		6月	
		7月	● 粉摺り機に使用する特殊熱硬化ウレタン製もみすりロール「イエローボーイ®」を販売開始
		8月	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「第44回 国際福祉機器展 H.C.R.2017」に出展(東京ビッグサイト)</li> <li>● 「SID Vehicle Display Detroit」に出展</li> <li>● 「バンドーグループ健康宣言」を制定</li> </ul>		9月	
		10月	
		11月	● 平成29年度「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」に選定
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「SEMICON Japan 2017」に出展(東京ビッグサイト)</li> <li>● 環境モニタリングに貢献する異物検査ツール「BANDO DEC-20™」を開発</li> <li>● 平成29年度「スポーツエールカンパニー」に認定</li> </ul>		12月	
		2018 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タイにて新会社「Bando Asia &amp; Pacific Co., Ltd.」の事業を開始</li> <li>● 100年企業顕彰において、「日刊工業新聞社賞」を受賞</li> </ul>
		2月	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「健康経営銘柄2018」に2年連続で選定</li> </ul>		3月	● 「第16回国際オートアフターマーケットEXPO2018」に出展(東京ビッグサイト)

## トピックス

2017年  
4月

輸送貨物の固縛ベルト用張力計「LASHINGBITE®」を販売開始

近年、物流業界では、トラック輸送や鉄道輸送、海上コンテナ輸送等、輸送環境の多様化に伴い、輸送中の振動や衝撃による荷崩れ、物損事故が問題となっています。荷崩れ、物損事故の原因は様々ですが、その一つが輸送貨物の固縛時における締め付け力の確認を全て人の感覚で行っていることでした。そのため、個人差やその時々によって締め付け力にバラつきが生じていましたが、当張力計は、高い精度で固縛用ベルトの張力を数値管理でき、輸送貨物の荷崩れの原因の一つである張力不足を防ぎ、輸送の信頼性を高めることが可能になりました。

2017年  
12月

環境モニタリングに貢献する異物検査ツール「BANDO DEC-20™」を開発

近年、電子部品の高密度化、高性能化に伴い、製造現場ではクリーンルームを設置する等、クリーン化対策が進んでいます。クリーンルームでは、空気中の浮遊塵埃が所定の清浄度レベル以下になるようクラス管理されていますが、落下塵と呼ばれる堆積した異物は軽視されがちです。この落下塵は、作業者が動作することで舞上がり、製品に付着する等、製品不良の要因の1つとなっています。当社は、この落下塵に着目して「作業者が簡単に、異物を検出できること」を設計コンセプトとした簡易ツールとして、画像ソフト等を併用した「BANDO DEC-20™」を開発いたしました。

2018年  
2月

「健康経営銘柄2018」に2年連続で選定

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として、経済産業省と東京証券取引所から「健康経営銘柄2018」に2年連続で選定されました。当社は、昨年9月に「バンドーグループ健康宣言」を制定し、経営陣と従業員、健康保険組合が一体となり、健康いきいき職場づくりチームを結成して活発に健康増進に努めております。今後も、従業員一人ひとりがやりがいを持ち、いきいきと働くことができる環境の整備に努めてまいります。

2018年  
3月

「第16回国際オートアフターマーケットEXPO2018」に出展

今回の出展では、「予防整備」をキーワードに補機駆動用伝動ベルトの適切な交換を喚起するため、ベルトの材質変更に伴う新たな交換基準に沿った予防整備の取組みをご紹介するとともに、ベルト交換の目安がわかるツールやチラシなどを配布いたしました。また、管理ツールを用いた補機駆動用伝動ベルトの適切な張力管理の実演を行いました。



## 株式の状況／会社概要 (平成30年3月31日現在)

## ■ 株式の状況

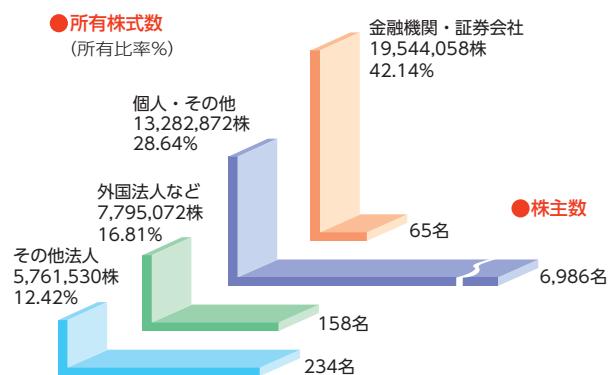
発行可能株式総数	187,000,000株
発行済株式の総数	47,213,536株 (自己株式830,004株を含む。)
株主数	7,444名

## ■ 大株主

大株主名	当社への出資の状況	
	持株数	出資比率
バンドー共栄会	3,742千株	8.06%
株式会社三井住友銀行	2,315	4.99
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,002	4.31
明治安田生命保険相互会社	2,000	4.31
株式会社みずほ銀行	1,800	3.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,582	3.41
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,575	3.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,352	2.91
日本生命保険相互会社	1,174	2.53
GOVERNMENT OF NORWAY	963	2.07

(注) 1. 出資比率は、自己株式(830,004株)を控除して算出しております。  
2. 上記の出資比率につきましては、小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。

## ■ 株主構成 (平成30年3月31日現在)



(注) 所有比率は、自己株式(830,004株)を控除して算出しております。

## ■ 会社概要

社名	バンドー化学株式会社 Bando Chemical Industries, Ltd.
創業	1906年(明治39年)4月14日
設立	1937年(昭和12年)1月7日
本社事業所	神戸市中央区港島南町4丁目6番6号
ホームページアドレス	https://www.bandogrp.com

## ■ 役員 (平成30年6月21日現在)

## 取締役

代表取締役社長	吉井満隆(社長執行役員)
取締役	柏田真司(専務執行役員)
取締役	染田厚(常務執行役員)
取締役	畑克彦(常務執行役員)
取締役(監査等委員)	中村恭祐(常勤)
取締役(監査等委員)	松坂隆廣
取締役(監査等委員)	重松崇生
取締役(監査等委員)	清水春生

## 執行役員

常務執行役員	永瀬貴行
常務執行役員	万場一幸
常務執行役員	松尾聡
執行役員	山口勝也
執行役員	岡田勉
執行役員	本田裕治
執行役員	八木尚史
執行役員	野口忠彦

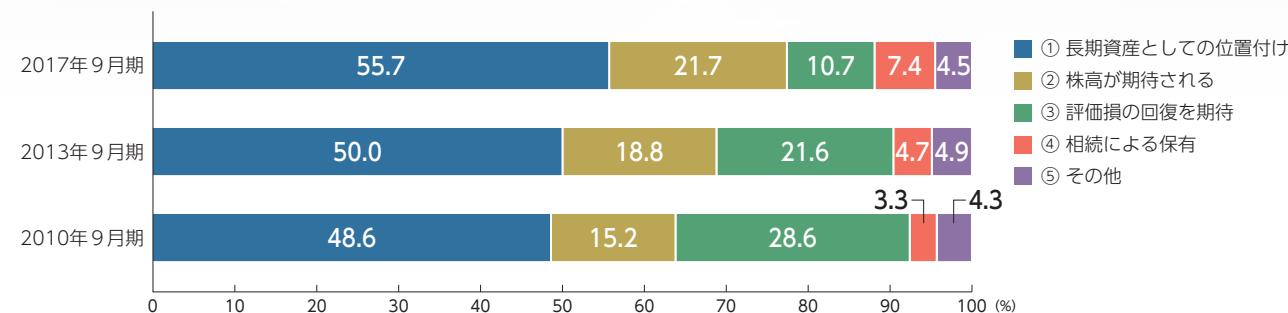
※取締役(監査等委員)松坂隆廣氏、取締役(監査等委員)重松崇生氏、取締役(監査等委員)清水春生氏は社外取締役であります。

## (ご参考) 株主様アンケート結果のご報告

第95期中間株主通信(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に同封してアンケートをお願いしましたところ、多くの株主様からご回答をいただきました。その集計結果の一部をご紹介します。

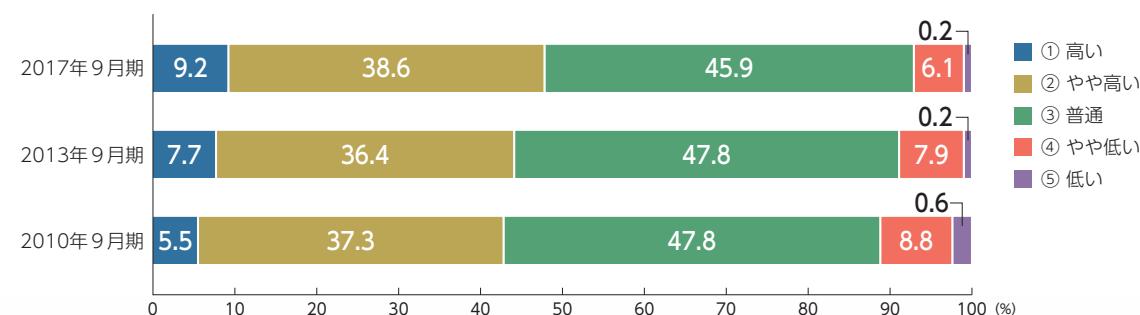
当社は、引き続き、株主様の声に耳を傾けながら、企業価値の向上に努めるとともに、株主様の満足度の向上を図ってまいります。アンケートにご協力いただきました株主の皆様、心より御礼申し上げます。

## Q 現在、当社株式を保有されている理由をお聞かせください。



「① 長期資産としての位置付け」および「② 株高が期待される」が増加し、「③ 評価損の回復を期待」が減少しました。

## Q 収益性・効率性に関して、株主様の当社へのご評価を5段階でお聞かせください。



「① 高い」および「② やや高い」が増加し、「④ やや低い」および「⑤ 低い」が減少しました。

なお、あわせてお聞きいたしました他のすべての評価項目(「将来性・成長性」、「安全性・安定性」、「株主還元」、「事業領域・マーケット」、「研究開発・技術」、「ブランドイメージ」、「IR活動・広報活動」、「株価」)についても、「① 高い」および「② やや高い」が増加する傾向が見られました。



**BANDO**

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日  
中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
TEL (通話料無料) 0120-094-777  
公告方法 電子公告により行う。  
公告掲載URL <https://www.bandogrp.com>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって  
電子公告による公告をすることができない場合は、  
日本経済新聞および神戸新聞に掲載して行う。  
上場取引所 東京(第1部)

### 〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



バンドグループは  
環境にやさしい事業を  
推進しています

